

校内研究計画

1. 研究主題

対話の中から深い学びを求める授業の創造
～全員参加の授業づくりを通して～

2. 研究仮説

主体的に意見を持つことのできる課題設定や子ども同士の対話の工夫をすれば、子どもたちは主体的に考え、学びを深めることができるであろう

3. 研究内容

<授業研究>

a **ペア・グループ学習を保障するための具体的な支援方法（対話的な学びの保障）**

- ・引き続き、授業の中に「ペア・グループ学習」を位置付ける。
- ・ブロック人権教育の視点を入れる。

b **課題設定と提示の工夫（主体的な学びの保障）**

- ・「深い学びを支える課題」の追究（「なぜ、どうしての課題」「絞り込んだ課題」などの問題解決学習で）

※ a、bにおいては、対話のある全員参加の授業づくりをめざし、授業UD（特別支援教育×教科の本質）やAL（主体的・対話的・深い）の視点からも試みる。

<授業を支える取り組み>

- c 家庭学習、個別指導の充実
- d 学習の決まり、学習規律の見直しと徹底
- e グループでの取り組みの日常化（生活班と授業グループのリンク、班活動等）

◇学習過程、学習活動と具体的な取り組みの視点

学習過程	学習活動	視 点	
		国 語	算 数
出会う	課題を受け止める	○多様な考えを出し合い、考えが深まる課題とは何か。 ○興味・関心を持たせられる課題との出会わせ方はどうあればよいか。	
考えを持つ	自分の考えと根拠を持つ	○教材文のどこに着目させるか。	○どのような算数的活動を仕組むか。
伝え合う 深め合う	お互いの考えを交流し合い、考えを深める	○子どものどんな考えをつなぎ、読み深めさせるか。 ○ペアやグループ活動をどこで入れていくか。	○どのように子どもの考えをつなぎ、数理を追求させていくか。 ○ペアやグループ活動をどこで入れていくか。
まとめる 生かす	学習を振り返る	○子どもにどのように振り返らせるか。 ○どのように評価していくか。	

◇分析、評価のあり方

- 提案授業から学ぶ姿勢で、子どもの姿を見取りながらの授業分析と考察
- 調査、アンケート実施での分析と考察

◇人権教育の視点を学習過程に位置づけ、指導案に入れていく。

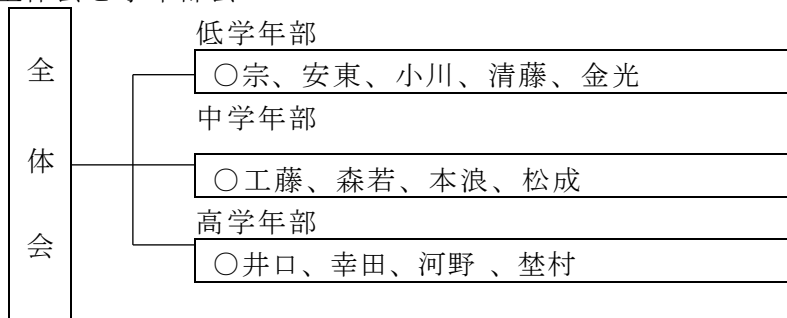
- 全教科全領域において、どの子ども学習に参加させていくことから学力保障へとつなぐ取り組み（課題設定、ペア・グループ学習の効果的な活用）
- 充実感や達成感を感じることができると、自尊感情を高めていく取り組み（やってみよう、そして、やったと感じとれる学習展開の工夫）

4. 研究組織

(1) 研究推進委員会

- メンバー
 - ・校長（衛藤）・教頭（豊永）・低学年部、教務（宗）・中学年部、研究（工藤）
 - ・高学年部（小野）
- 開催日
 - ・火曜日 16:15～16:50
 - （毎週ではない。運営委員会と兼ねる場合もある。）
- 話し合う内容
 - ・研究推進についての案作りをする。

(2) 全体会と学年部会



- 全体研は、原則月1回、水曜日に行う。
- 学年部研は、原則月2回、水曜日に行う。

5. 研究計画

月	研究・実践	月	研究・実践
4	基本構想づくり ・研究主題・研究仮説 ・研究組織・研究年間計画 学級実態の分析、学年・学級実践	10	学年部研究授業、部落差別解消推進法研修、色覚研修、ブロック人権レポート審議
5	・気になる子の情報交換 第1回全体研指導案作成	11	第2回全体研究会、学年部研究授業・指導案作成、事後研究会 ブロック人権レポート
6	第1回全体研究会、学年部研究授業 ・指導案審議、事後研究会 先進校公開研視察	12	提案授業分析と考察、学年部研究授業 個人授業研
7	提案授業分析と考察、1学期のまとめ 学年部研究授業	1	標準学力調査 ・アンケート調査 学年部研究授業
8	研究内容の検討、2学期の研究計画 市人権実践交流会 校内研究に向けての教材研究 UD研修	2	先進校公開研視察 学力調査の分析、考察 各学年の研究のまとめ
9	学年部研究授業、個人授業研	3	研究のまとめ、来年度研究の方向性